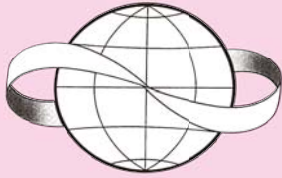


ヴェーナス通信



Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第80号

商標登録第 4882482 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
TEL : 042 - 395 - 9788
FAX : 042 - 395 - 9787



「石灰石由来の新素材」の問題点

紙とプラスチックの代替品として開発され、石灰石で作られた新素材「LIMEX」が我々リサイクル業界で物議を醸している。古紙の禁忌品である『ストーンペーパー』の一種で、古紙回収に混入する可能性が高く、選別工程でも発見が難しい。製紙メーカーに持ち込まれた場合、マシンのトラブルの原因になり、古紙のリサイクルを阻害する要因となりうるからだ。

ところが販売元は、紙と比べ、水に強く破れない、生産の際にも製紙工程では必要な大量の水や木をほとんど使わない、さらにプラスチックと比べると無機物である石灰石を五十%以上含んでいる(石油由来成分が少ない)ため、SDGsの目標への貢献、持続可能な循環型イノベーションに貢献しているとさかんにアピールしている。あたかも紙を利用することが環境に悪いかのようにミスリードしているのだが、最近では、日本規格協会からJSA規格が発行され、一部自治体や大手企業でも使われ、そのシェアを拡げている。また、この素材自体は、プラスチック代替品として半永久的にリサイクルすることが可能であると謳っているが、名刺やパンフレ

ットのような形でばら撒かれたこの素材をどのように分別回収するつもりなのだろうか。ぱっと見た目では、古紙と「LIMEX」の分別は困難だ。プラスチックの代替品に使われている場合も同様に見分けがつかない。更には、石灰石成分が混入しているため、廃プラとしてのリサイクルも困難だ。こうなると、市民に十種類近く分別してもらっているごみ・資源の分別がもう一種類増えることになりかねない。そして、古紙にもプラにもならず可燃ごみに出された場合、焼却炉に石灰が付着することが懸念されている。少なくとも、『これは紙ではありません、製紙原料としてリサイクル出来ません』と明記して頂きたい。

もし、紙のようで少し肌触りの違うようなものがあつたら、水で濡らしたり、手で破れるかどうか試してみたい。水でほぐれたり、手で簡単に破ければ紙、破けなければ合成紙やストーンペーパーという禁忌品だ。こうして考えると、問伐材などを利用した木材由来の『紙』という素材、『古紙』としてのリサイクルシステムは、決して新素材に劣るものでも取って代わられるものでもないかと改めて確信できる。『紙

今後の古紙の動向は？

古紙リサイクルの中で、今後心配されることは、昨年末で中国が古紙の輸入をストップしたのに引き続き、韓国、ベトナム、マレーシアなどでMIX古紙の輸入が停止となること。品質と発生量が安定している段ボールに対し、雑誌・雑がみについては不安要素が残る。輸出の可能性が狭められていく中で、毎年一割程度の幅で減っている新聞古紙の代替として、製段ボール古紙の中芯用として、製紙メーカーには、雑誌古紙の国内での消費を高めて頂きたい。二〇〇八年の大手製紙メーカーによる古紙配合率偽装事件以来、グリーン購入などの古紙の配合率に関する議論が弱まった気がする。市民の皆様には、改めて再生紙利用製品の優先購入を呼び掛けて頂くなど、古紙の国内利用拡大にご理解ご協力をお願いしたい。(TKO)

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

直言拝聴

『資源回収業界の現状について』

東京都資源回収事業協同組合

第19代 理事長

松本 貞行



◆**東資協について**◆
東京都資源回収事業協同組合（東資協）理事長の松本でございます。

東資協は資源の回収業者の集まりの組合で都内各所に一七〇社の組合員が居ます。また、その組合員が中心となり、各地域組合を活

動の拠点とし行政回収や集団回収、オフィス古紙回収を行なっております。

組合の歴史は七十年を超え、古くから東京都の資源回収を市民の皆様とともに支えて参りました。

この七十年のあいだには、オイルショックあり、リーマンショックありと様々な社会的変化がありましたが、この度の世界的なパンデミックであるコロナウイルス感染症は、回収現場のあり方を改めて考えさせられる大きな転機となりました。

今回はコロナ禍での資源回収業界の現状と今後のあり方をお伝えすべく、誌面をお借りいたしました。少しでも回収事業のリアルな現状をお伝えできればと思います。

◆**コロナが与えた影響**◆

昨年初めより拡大したコロナウイルス感染症ですが、我々資源回収業界には大きな影響を及ぼしました。幾度となる緊急事態宣言が出る中、国は出来る限りの外出自粛とリモートワークを推奨しましたが、我々回収業者は常に現場に出、市民の皆様が排出した資源を回収し続けました。巣籠りによる家の中の片づけの影響で今までにない量の雑誌類・古布の排出や、宅配需要の増加による家庭か

らの段ボール箱の大量排出、そして家飲みの影響で、飲料缶やびん類の大量排出：この状況は若干の上下はありますが、この一年間、数量は高止まりで推移しています。

その反面、リモートワークの影響で事業系古紙の減少は深刻で、オフィス町内会形式で中小企業の古紙を回収する事業系古紙リサイクルシステムは数量が減り、その回収システム自体の継続が危ぶまれている状況が見られております。

排出物の変化としては、家庭でのリモートワークで事業系と思われるシュレツダー古紙が家庭から排出されています。シュレツダーは可燃ごみとして扱う自治体も多いため、本来資源としてリサイクルされるべきオフィス古紙が家庭から可燃ごみとして処理されており、その扱いについては今後、問題となつて来ると思われれます。

◆**集団回収にも変化が...**◆

集団回収では、町会やPTAなど多くの人が集まり資源を持ち寄る方式の回収は、人が密になるとの理由で中止や延期が余儀なくされました。そういった資源の一部は倉庫などにストックされましたが、そのほとんどは行き場を行政回収に求め、行政の資源回収車両の増車という結果を招きました。

また、そんな資源物の大量排出がされる中、昨年より中国への古紙の輸出が止まり、その結果、古紙価格が低迷した影響で、無責任な回収業者による集団回収の放り投げや、持ち去り行為者の減少により、益々行き場のなくなった古紙を何とか回収し続けたのは地域に根ざした回収業者でした。

古くから集団回収や地域の古紙回収に従事してきた地元回収業者は、古紙の回収システムが崩れないよう、赤字覚悟で回収を続けました。一部の自治体では回収業者支援をしていたりましたが、回収経費としては十分ではないところが大部分です。

◆**エッセンシャルワーカー**

◆**である回収業者に支援を**◆

そのような中、東資協からは東京都へ回収業者への支援の要望書を提出してまいりました。

東京都からは今年度の【地域の健全なリサイクルシステム維持支援事業】の中で集団回収を維持・継続するために『資源の回収業者に対し、区市町村が財政支援する取り組みを実施する事』という項目を入れていただきました。

なかなか運用が難しい補助事業ですが、今まで業者に対する支援という考えがなかった中、東京都

には、我々回収業者がいなくなっ
てしまったら、古紙の回収システ
ムが崩れてしまうという事をご理
解いただいた結果だと思ってお
ります。

◆回収作業での感染リスク◆

また、コロナ禍での回収作業は、
その感染リスクを第一に考えて行
わなければならず、現場の作業員
の苦労はとて負担になっており
ます。

可燃ごみや不燃ごみと違い、資
源は市民の皆様から出された後、
多くの人が加えられて再び原
料として流通します。

まずは回収業務。集団回収にし
ても行政回収にしても、積込作業
は手作業です。そして、積み込む
際には一時分別を行います。もち
ろん市民の皆様が分別排出をして
いただいています。さらにプロ
の目で分別をします。

そして搬入した先の処理施設で
も異物除去やさらなる分別作業を
行います。すべての段階で作業員
の手が加えられます。こうした分別
の徹底により、良質な資源として世
界的にも日本の資源物は綺麗だと言
われ品質を認められております。

日本は昔から資源とごみは分け
て考えていました。廃棄物処理の
法律でも、もっぱら再利用するも

のを扱うには許可が要らないとさ
れ、適正なりサイクルルートが確
立されておりました。有価物とし
てリサイクルをするには、ごみを
出す時以上に厳しい分別のルール
があったからです。

ただ、このコロナ禍では感染リ
スクにより、なお一層の分別排出
に関する注意点が増えたと思いま
す。

信じられないことに、雑紙の中
に使用済みのマスクやティッシュ、
紙おむつも混ざることがあります。
これはコロナ感染症でなくても衛
生的に分別を徹底して欲しいとこ
ろでございます。また、びん・缶

は洗って出してくださいとしてい
ますが、なかなか協力いただけ
ないことが多く、びんはともかく
缶は直接口につけて飲む方もいる
中、飲み残しなどで回収時に液体
を浴びてしまう従業員もいます。

またびんなどは割れたものも一緒
に出され袋を持った際に手を切っ
てしまうこともあり、様々な感染
リスクを負いながらの回収業務と
なっております。

◆市民の声を励みに◆

古紙の大量排出、コロナ感染リ
スクと、この一年は回収業者とし
ては大変な一年であったと考えら
れます。とかく、現場で働く従業

員さん達のモチベーションを保つ
のは大変だったと思われれます。

嬉しいことに、市民の皆様の中
には「コロナ禍での回収作業、ご苦
労です！」とか「回収作業感謝して
おります」「いつもありがとうございます
です！」と排出された資源物にメ

ッセージを貼り付けていただけ
る方もいました。それを見た従業員の
中には、改めて自分たちも医療従事
者と同じく社会に必要なエッセ
ンシャルワーカーであり、資源回収が
生活に欠かせない業務である事に
気づいたと話すものもいました。

◆まとめ◆
我々の仕事は持続可能な社会を
形成するため、リサイクルの最初
の入り口である回収業務を請け負
っており、市民の皆様が出してい
ただいた資源物を確実にリサイク
ルし、再び皆様のお手元に戻す責
務を担っております。

持続可能な社会形成のためには、
市民の皆様、行政の皆様と回収業
者で力を合わせて行動することが
必要です。どこか一つでも欠ける
と、資源回収システムは簡単に壊
れます。一度壊れた資源回収シス
テムを再び作るのは容易ではあり
ません。

持続可能な開発目標としてSD
Gsという行動がございます。

その目標の十二番目に持続可能な
生産と消費というものがあ
ります。生産と消費を持続するには、消費し
たものをまた生産に戻すという行
為が必要不可欠になります。その
位置に我々資源回収業者がいると
思います。

今後は世界的に環境が重要視さ
れる社会になるのは間違いない、
我々資源業界は益々重要性を持
業種であることを自覚し、市民の
皆様、行政の皆様の信頼と期待を
裏切らないよう活動してまいりま
すので、今後ともよろしくお願
いいたします。

東資協Youtubeチャンネルで、松本理事長の挨拶を配信中

直言拝聴をご寄稿頂いた東資協松本理事長のご挨拶を Youtube チャンネルでご覧頂けます。チャンネル登録といいね👍をよろしくお願ひします。



【フリーコラムコーナー】
家で飼っている猫の話



そろそろ四歳になるオスの猫。生後間もなくへその緒がついたまま道端で拾われたらしい。らしいというの友人の息子が拾ったもので、友人から聞いた話でしかないからなのだけれど、近くに親猫の姿もなくこのままでは死んでしまうだろうと保護されたという話である。里親募集をしているときに、たまたま猫を飼おうとしていたので、直ぐに連絡を取り我が家で引き取った次第で、それから早四年が経とうとしている。小さい頃は手やら腕やら足やらと、隙あらば噛み付いてきていたもので、成猫になれば落ち着くだろうと思っていたのだが、未だにことあるごとに噛みついてきたりするものだから、なかなか傷が癒えないものである。それでも、帰宅して甘えてきているところを構ってやらずにいると、噛んで抗議してくるところなどは可愛いと感じてしまうあたり、自分も大概であると感じたりする。

コロナ禍においてなかなか外出もままならない中、家に猫がいるというのはかなり癒される。一緒に

に遊んで、一緒に寝て同じ時間を過ごすものがあるというところはありがたいものだ。ニュースなどでは、ステイホームによってペット需要が増えたものの、結局飼いきれなくて捨てられたりしている話を目にする機会が何度かあるが、その度に憤りを感じ、また哀しくもなる。自宅時間が増えたから思いつきで飼うのではなく、ひとつの生命を自分が預かるということ。その生命が全うされるまで共に過ごすこと。そういったことをしっかりと考えて飼いはじめたいものだと切に願う。(N西)



前から猫が飼いたいと動画を見ながら癒されていたが、二年も続いた息子の受験もようやく終わり、平静を取り戻した我が家に突然その時が訪れた。

話はさかのぼること一年前、弊社リサイクル工場に子猫が捨てられていた。(いくらリサイクルする工場でも猫までは引き受けていません。)生後一か月ごろの可愛いキジトラが一匹、事務所の裏で「に

やーにやー」鳴いていた。猫を飼っている従業員が引き取ってくれたのである。

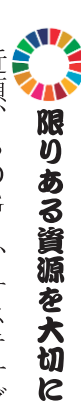
その子猫がこの春、先住猫との間で4匹の可愛い子猫が生まれたとの報を受け、早速家族会議、慎重派のおばあちゃんを説き伏せ、全員承諾でゴースイン。一匹じゃかわいそうだから二匹引き取ろうと夢は膨らみ、猫を迎えるために大掃除を遂行、新しいキャビネットも購入し模様替えも行い準備万端。ゴールデンウィークの最終日、息子が彼女を夕食に招待したその会話の中で一言、「わたし、強度の猫アレルギーなんです」そこにいた家族はみな凍り付いた。Ohh、なんていうタイミング!! 息子の幸せを取るか? 念願の夢を取るか? 皆さまならどうします? (高橋)

『知らない文字』

最近何かと話題のエヴァンゲリオンを覗てきた。このエヴァンゲリオン「エ」旧字体、よく知らない世代の私からすると少し格好よく見えてしまう。最近の若い



世代の人の中には英語の筆記体を知らない人もいるそうだ。筆記体の習得が必須でなくなったからだ。習わなかった彼らは筆記体を見てどう思うのだろうか。私が思う旧字体のように少し格好よく見えるのだろうか。(K原)



近頃、SDGs、サステナブルという言葉をよく耳にするようになった。どういう意味があるのかは、ここで説明しなくてもよくご存知ではないでしょうか。これからの社会にはとてつもなく重要なことに思えてならない。なぜなら資源には、必ず限りがあるからである。

私は車が非常に好きで、愛してやまないと言っても過言ではない。そのこともあり、家族にはひんしゆくをかいながらも、車のテレビ番組をよく見ているのだが、昭和の車を乗り続けていたり、昔の車をレストアする番組が特に面白くて、わくわくする。こういった番組を見ていると、先に述べた言葉を私なりに重ねてしまうのである。

古き良き時代をなくさないためにも、私なりに出来ることを続けていきたいと切に思う。(W林)

リサイクル掲示版

古紙・古着 こんな出し方に困ってます

日頃は、資源の分別排出にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。大多数の市民の皆様がルールを守って出して頂いていることは十分承知しておりますが、そのような中でも一部ルールが守られていないケースがあります。最近、回収員から上がってきた『困る出し方』について、ご紹介させていただきます。もし、そんな話は初耳だという方がいらっしゃいましたら、明日の資源回収から気を付けて出して下さい。よろしくお願いいたします。

①出す時間が守られていない

ごみや資源を出して頂く時間は、各市で決められています。

回収車両が来るまでに出すのではなく、右の時間までに出して下さい。

※回収車はいつも同じ時間に来るとは限りません。

●資源物はこの時間までに出して下さい●

東村山市、小平市 AM 8 時まで

西東京市、清瀬市 AM 8 時 30 分まで
東久留米市

②いつもと出す場所が違う(※戸別収集の場合)

特に、古紙・古着は雨の日に濡れないようにと、いつもと違う軒下などに出されるケースがあります。

古紙は、多少濡れても大丈夫ですので、いつもと同じ場所に出して下さい。

古着は、濡れると資源にならないので、雨の日には出さないようにお願いします。



道路から見えるところに出しましょう。また、ごみなどの臭いが付くと資源にならないので、バケツ等に入れなくて下さい。

③回収してはいけないものが出ている

紙類や衣類を見えるところに置いてあると、資源回収の際に間違えて回収してしまうことがあります。

資源回収の日には、道路から見えるところに間違えそうなものを置かないようにお願いします。

(例えば…)

- ・新聞販売店回収や集団回収に出すつむりの古新聞、雑誌など
- ・引っ越しなどに使う予定の段ボール
- ・クリーニングに出す予定の衣類を入れたビニール袋
- ・インターネット通信販売の置き配

(↑最近多いので、注意して下さい!)



集団回収や販売店回収に出す資源物は、上にチラシを載せましょう

④一つの袋の中に古布を詰めすぎている(重くて持ち上がらない)

古布を70～90リットルの袋にたくさん詰めると、ものによっては一袋3～40kgくらいになることがあります。古布は、パッカーのルーフに積載することも多く、あまり重いと持ち上がりません。詰め込みすぎず、一袋当たりせいぜい10kg程度にして頂くようお願いします。




裏面に続く

リサイクル掲示版

リサイクル掲示版

⑤段ボールをつぶしていない、段ボールと雑誌・雑がみがごっちゃ混ぜになっている

古紙は、大きく分けて、新聞、段ボール、牛乳パック、雑誌・雑がみ（新聞、段ボール、牛乳パック以外の紙）の4種類に分別されます。これは、それぞれ再生用途が異なるため、別々に回収・加工しているからです。最近多いのは、段ボールをつぶさないで出している、段ボールの中に、台紙や化粧箱などの雑がみが挟んである、雑誌・雑がみの中に段ボールが混ざっているというケースです。段ボールは断面が波状  になっています。段ボールと雑誌・雑がみは分別して出して下さい。



⑥禁忌品(リサイクル出来ないもの)が混入している

古紙や古布には、リサイクルできない禁忌品があります。その中でも、最近回収中に多く混入していると報告のあったものをピックアップします。

- ・マスクや使用済みのティッシュペーパー、紙おむつなど感染の恐れのある禁忌品の混入

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、特に不織布マスクの排出が増えました。古紙や古布の中にマスクが混入していることも多々あります。そもそも、不織布のマスクは紙でも布でもありません。紙おむつも紙ではありません。マスク、ティッシュペーパー、ペーパータオル、紙おむつなどは、古紙や古布には混ぜないで下さい。

なお、使用済みのマスクは、感染の恐れがあるため、回収員が特設触れないようにビニール袋などに入れて、可燃ごみとして捨てて下さい。



古紙・古布に混ぜないで！

- ・蛍光灯や発泡スチロールが入ったままの段ボール

回収した段ボールの中に、蛍光灯などがそのまま入っていることがあります。パッカー車で巻き込んだ場合、段ボールの中で粉々に割れてしまい、後処理が大変になります。蛍光灯以外にも、発泡スチロールなどが入っていることもあります。段ボールの中身は空にして出して下さい。また、こうしたことを無くすためにも、段ボールは潰して縛って出すようにして下さい。



- ・ピザなど食品残渣の付着した段ボール

これも意外と出されるケースが多いのですが、宅配ピザの段ボールのように、食品残渣や油のついた段ボールは資源になりません。可燃ごみとして処分して下さい。



- 分別方法、その他の禁忌品については、下記のページを参考にして下さい。なお、行政回収に出す場合は、お住いの市の分別ルールに従って出して下さい。

○公益財団法人古紙再生促進センター <http://www.prpc.or.jp/>

○日本繊維屑輸出組合 <https://www.jwfa.or.jp/>



ご協力宜しくお願いします。

小平市リサイクルセンター(RC)の運営体制について

当組合では、日本管財環境サービス(株)(NKKKS)との共同企業体(JV)として、令和元年度から十五年間、小平RCの長期包括運営委託を受けています。

現場の責任者は、NKKKSの井守所長を筆頭に、当組合の加藤副責任者、枝並主任、澤村主任の元、二〇名の作業員が古布・牛乳パック・びん・缶・有害物・剪定枝の選別作業、RC及び協力古紙問屋三社で選別された資源物の再資源化業務を行っています。

組合本部との連携、管理体制として、吉浦理事長を筆頭に、紺野専務理事(担当理事、㈱三栄サービス)、若林茂治・福田計盛(日興紙業商事(株))、高橋直人(福田三商(株))の五名により小平RC運営委員会を構成し、毎月一回の小平RC責任者会議、毎週一回RCでの責任者ミーティング、作業員面談を行っています。



また、JVを組んでいるNKKKSとは、毎月一回のJV会議を通して、作業状況や人員体制、運営上の協議などを重ね、安全と品質の確保に努めています。

集団回収の組合事業化によるフオローアップを開始

古紙市況の悪化により、昨年一月に東資協が『集団回収事業非常事態宣言』を発して以降、各地で組合に所属していない回収業者の廃業や小規模の集団回収団体の回収停止などが相次ぎました。また、新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言の発出以降は、団体が回収を休止したり活動自体をやめてしまうケースも増えました。

当組合としては、長年かけて市民、行政、回収業者が協力して築き上げてきた、市民参加型の地域密着のリサイクルシステムである集団回収を何とか維持、拡大していきたいということ、業者が撤退してしまった集団回収を組合事業化して継続していく取り組みを推進しており、現在、モデルケースとして、二団体を複数の組合員、古紙問屋の協力で回収しています。

今後の展望としては、特に継続が難しくなっている小規模の団体の組合事業化によるフオローアップを検討しています。

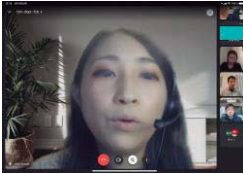


東資協青年部SDGs研修会

三月十八日、㈱B.D.パートナーズの春木麻利江氏を講師にお招きした「今さら聞けないSDGs」と題した勉強会に参加しました。

最近良く耳にするこの「SDGs」なる言葉、確かに正式に言葉にするにはなかなか難しい！皆様はご存知ですか？因みに私は正確には答えられませんでしたが、このような絶妙のテーマをチョイスした青年部の皆様に感謝しながらWebにて視聴させて頂きました。

「SDGs」正式には「持続可能な開発目標」と言い、世界を持続可能な軌道に載せるために、二〇三〇年に向けて世界的な優先課題と世界のありたい姿を網羅的に示したものだそうです。二〇一五年に国連本部にて全会一致で採択され、貧困や飢餓、教育や雇用、水と衛生、エネルギーや気候変動、生態系保全などの社会課題にたいして、どうありたいかを述べているそうです。



やっぱり難しい！でも私たちの出来る事、やるべき事を粛々と行っていくかなんてはいけないと感じながら、講義を視聴させて頂きました。(福田)

第十九回 青年部通常総会を開催

四月一日に吉浦理事長、福田業務委員長を来賓にお招きし、Web会議にて総会を開催した。

総会では、組合事業への協力として、業界として早い段階でのWeb会議の導入、新型コロナウイルス感染対策の情報収集、Webによる安全講習会の企画・運営や共同受注検査活動を行ったことを報告。青年部としては、組合や各種団体の研修会に積極的に参加することで、業界の次世代を担う人材となるための勉強をした。地域貢献活動としては、コロナ禍により、例年行っていた職場体験学習、イベント参加リサイクル教育の実施といった活動を行うことができなかった。他組合青年部との交流としては、日・関資連青年部意見交流会や、東資協青年部等の研修会に参加したことを報告、全ての議案が滞りなく承認可決された。

新型コロナウイルスの終息は、まだまだ見えない状況ではありますが、新しい技術や常識を常に取り入れ、アップデートを続けられるよう努力してまいります。(水野K)



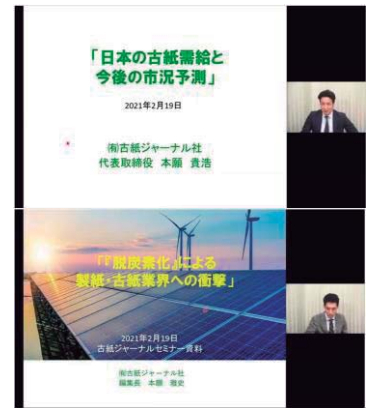
古紙ジャーナルのセミナーに参加

去る二月十九日(金)に表記のオンラインセミナーに参加した。

昨年末で中国向けの古紙輸出がストップし、またコロナ禍で紙の需要と古紙の発生が減少する中で、今後の古紙業界を取り巻く方向性について、関心があった。

一人目は、サイクラーズ(株)代表取締役福田隆氏から、「資源リサイクル鎖国時代に考えるポイント」として、中国事情、バーゼル法改正後のスクラップやプラスチックの状況を説明し、今後、単なる廃棄物・リサイクル産業は低成長市場であり、製造・サービス・リサイクルを絡めた新たな価値を創造する必要があると結んだ。

二人目の古紙ジャーナル社の本願雅史氏より、『脱炭素化による製紙・古紙業界への衝撃』と題し、石炭をはじめとする化石依存の大きい製紙業界がカーボンニュートラルの目標達成に向けて取り組んでいくことと古紙利用との関連を分析して説明された。中でも気になったのは、木材パルプの加工段階で発生する黒液の最大限活用へ向かうことで、古紙の消費量が100万トン減る可能性があるとのこと。黒液は太陽エネルギーを蓄えた生物由来のエネルギーである



オンラインセミナーの様子

ことから、バイオマスエネルギーとして扱われる。木材は二酸化炭素と水を吸収し太陽光を浴びて成長し、燃やしたとしても植林してまた二酸化炭素を固定して循環することが出来るので、カーボンニュートラルとカウントされるため、古紙利用の優位性が損なわれるおそれがある。当然古紙を回収・加工・製紙会社への運搬時にもCO2が発生するため、古紙業界にもカーボンオフセットの努力が求められるということ。

古紙利用の水準を維持してもらうため、古紙業界は、コストメリットや供給安定性を強調していくことがより重要になっていくだろうと締めくくった。

古紙業界がカーボンオフセットに協力するのはもちろんだと思いが、古紙をリサイクルせずに燃やした場合のCO2排出を考えると、古紙を再生利用して頂く方が環境

には絶対的に優しいと主張したい。

三人目の同社本願貴浩社長からは、品目ごとの需給や価格を分析した上で、今後の動向について、ポジティブ要因としては、コロナ終息の反動による景気回復、コンテナ不足解消と運賃下落の兆し、東南アジア、欧米での相次ぐマシン稼働、各地での製品価格、原料価格の上昇、アジア製紙メーカーの古紙原料不足、インド製紙業の発展を上げつつ、ネガティブ要因として、コロナリスクの長期化、輸出価格の天井感、欧米古紙の振替による古紙の余剰、年内にMI X古紙輸入ストップを発表した韓国の将来的な古紙輸入ゼロ、日本の輸出向け雑誌古紙がごみ化する可能性をあげた。

四人目は、山發日本(株)営業部兼統括管理部長坂口健太郎氏。コロナによる海上運賃の上昇や原料不足により短期的には、原紙や古紙の価格は上昇するが、数年後に東南アジアで計画されたマシンが次々に稼働した場合、中国市場は飽和状態になり余剰するだろうとした。

五人目は(株)リニア代表取締役李明鮎氏。アジアから見た日本の古紙について。日本の輸入国からの立地の優位性や、二〇二一年は

アジアで段ボール古紙が不足するなどの説明があった。

最後は、「古紙業界のM&Aの潮流と古紙問屋によるグループ化戦略」とのテーマで大和紙料(株)専務取締役 矢倉得正氏。今後、古紙の発生が減る、特に産業界の古紙が減り、一ヤードあたりの集荷も減っていく中で、仕入れ競争という状況で、古紙だけでは食べていけないため、ヤードの集約や大手によるM&Aの可能性について話があった。

何度も厳しい状況を乗り越えて、地元のリサイクルシステムを守ってきたのは、大手さんではなく、地域に密着した中小のリサイクル事業者の団結(当組合)です。と思いつつ話を聞かせて頂いた。長丁場のオンラインセミナーだったが、先行き不透明な古紙やスクラップの情勢について、再確認することが出来た。(TKO)

● 容環協意見交換会に参加

去る二月一二日(金)にリモートにて開催された全国牛乳容器環境協議会 第三三回紙パックリサイクル促進意見交換会に紺野広報委員長と福田の二名が参加した。この意見交換会は、牛乳パックを取り扱っている飲料メーカー、製紙メーカー、再資源化事業者の他、

農林水産省、経済産業省、自治体代表者、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会をはじめとする各種市民団体などが参加し、毎年開催されているものだ。東多摩再資源化事業協同組合として毎年紺野委員長が参加していたが、今回は、東資協で行っている学乳パック回収のこともあるので、私も参加させて頂いた。容環協遠藤常務理事の開会挨拶、農水省、経産省の担当者からの来賓挨拶のち、紙パツクリサイクル取組状況報告として、伊藤事務局長から二〇二〇年度 取組報告概要の説明があり、二〇二〇年度までに回収率五〇％を目指す行動計画を進めていたが、二〇一九年度の回収率が四一・四％と前年度比一・一％減という状況であると報告があった。次に二〇二〇年度専門委員会報告が各委員長からなされた。その後、飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査報告について、株式会社エコイプス 代表取締役



猪瀬 秀博氏から説明があった。その後の意見交換では、プラキヤップ付きの牛乳パックや学乳パックのリサイクルに関する質問が上がったが、あまり議論は深まらなかった。

初めての参加で、リモートということもあり、その場での意見発信が出来なかったが、こうした場に回収業者として日資連や東資協として関わっていないこと、市民団体の方々に回収の現状における問題意識を発信して共有していただく必要性を感じた。(福田)

2021 NEW環境展に行ってきました
去る三月一八日 (木)、東京ビッグ



サイトで開催されている環境展に行ってきました。昨年はコロナ禍で中止になってしまいましたが、今年は規模を縮小しての開催となりました。

また、コロナ禍ということ、入り口での検温や消毒はもちろん左のようなオゾン殺菌装置を通して入場するようになっていたりなど、様々な対策が取られています。規模縮小ということ、古紙回収に関連するような展示は少なかつたようで、パッカー車などの出展



オゾン殺菌通路を
通って会場に入ります。

もありませんでした。一通り回ってみて、やはりコロナ禍にまつわる出展内容が目立ったように感じました。私も気になったのは、換気設備や熱中症対策などでした。数年ぶりに参加して、開催規模から少し物足りなさも感じました

が、環境問題、リサイクルの中でトレンドは何なのか感じる事が出来ました。逆に古紙はある意味時代遅れなのかもしれないと感じてしまふところもあり、少し新しいことを考えて取り組んでいきたいと気持ちを新たにすることが出来ました。(AYK)

TAMAとごん討論会に参加

去る三月六日(土)、一三時から聖蹟桜ヶ丘のアウラホールからの中継で、ユーチューブ配信により表題の討論会が開催されました。

主催である第二八回TAMAとごん討論会実行委員会の小石恵子実行委員長の挨拶に始まり、東多摩リサイクル市民連邦の江尻事務局長から事前のアンケートに



講演1の講師を務める東資協の松本理事長。Youtubeにて限定配信されました。

回答のあった多摩地域の二五市町村のコロナ禍におけるごみ・資源の状況についての取りまとめの報告がありました。どの自治体でも昨年の緊急事態宣言下でごみ量が増えたようでした。

続いて講演1では、直言拝聴にもご寄稿頂いた東資協松本理事長から『回収された資源の流れ』について品目ごとの回収方法やリサイクルルート、コロナ禍で回収業界が受けた影響について説明されました。講演2では、ナカノ(株)の内田長氏から古着のリサイクルについて説明がありました。最後にダイナックス都市環境研究所の山本会長のコーディネートによるディスカッションも行われました。初のオンライン開催でしたが、久しぶりに松本理事長の雄姿を拝見し、また地元から参加出来たので良かったと思います。(小畑)



感染の恐れのある廃棄物の適正処分をお願い

先日、当組合が運営



市リサイクルセンターの作業員が、乾電池の分別作業を行っている際に、混入していた注射針を手に刺してしまふ事故が発生しました。

怪我自体は小さなものでも、感染の恐れのある廃棄物ということでも、直ちに作業を中断させ、現場責任者がすぐに病院に連れて行きました。念のため各種感染症の検査、ワクチン接種などを行い、とりあえずは無事が確認されましたが、当面の経過観察と定期的なワクチン接種が必要とのことでした。

今回の注射針は医療系の廃棄物であり通常のごみ収集には絶対に出してはいけませんので言語道断ですが、他にも、古紙や古布の中に感染の恐れがある使用済みのマスク、ティッシュペーパー、おむつなどが混入しているケースが作業員から数多く報告されています。（本誌六〜七頁のリサイクル掲示板もご覧下さい。）

また、洗浄されていないびんや缶、ペットボトル等も、感染の恐れがあります。コロナ禍ということもあり、作業員も十分注意して

作業を行っておりますが、水際で防ぐことが出来れば助かります。市民の皆様には繰り返しになりますが、分別の徹底を改めてお願い致します。

行事・行動

【二月】

- 二日：集団回収委員会(Web)
- 八日：東資協臨時総会(Web)
- ：東資協理事会(Web)
- 十日：小平RC責任者会議(Web)
- 十一日：定例理事会(Web)
- 十二日：古紙ジャーナルセミナー(Web)
- 十七日：小平RC関連JV会議(Web)
- ：青年部会議(Web)
- 十九日：東村山市廃棄物減量審(書面)
- 二十二日：財務委員会
- ：業務・集団回収委員会(Web)
- ：広報委員会(Web)

【三月】

- 三日：小平RC責任者会議(Web)
- 六日：TAMAととん討論会(Web)
- 八日：東資協理事会(Web)
- 十一日：財務委員会
- ：定例理事会(Web)
- 十二日：小平RC関連JV会議(Web)
- 十六日：小平市リサイクルきゃらばん
- 十七日：財務委員会
- ：業務委員会(Web)
- 十七日：東資協青年部リモート研修会

：小平市廃棄物減量審

【四月】

- 二日：小平RC責任者会議(Web)
- 七日：共同受注検査(東村山市)
- 小平RC関連JV会議(Web)
- 八日：共同受注検査(東村山市)
- ：東資協理事会(Web)
- 十二日：広報委員会(Web)
- ：定例理事会(Web)
- 十三日：青年部総会(Web)
- 十四日：共同受注検査(東村山市)
- 十九日：業務・集団回収委員会(Web)
- 二三日：西東京市長表敬訪問
- ：東大和市環境市民の集い総会
- 二六日：東資協臨時理事会(Web)
- 二八日：東村山市業者連絡会
- ：財務委員会

【五月】

- 七日：小平RC責任者会議(Web)
- 十日：東資協理事会(Web)
- 十一日：小平RC関連JV会議(Web)
- 十二日：定例理事会(Web)
- 十五日：日資連理事会(Web)
- 二一日：第28回通常総会(Web)
- 二四日：業務・集団回収委員会(Web)

編集後記

まずは、直言拝聴をご寄稿頂きました松本理事長、ありがとうございます。エッセンシャルワーカーである回収業界が、依然として苦しい市況の中、感染対策をしながら業務を続けていることを東資協が率先して東京都や関係各所にPRし、働きかけて頂いていることに心から感謝を申し上げます。さて、つまらないゴールデンウィークになってしまったことは最初から分かっていたと思いますが、本日に我慢の一週間になってしまいました。昨年は、緊急事態下の巣ごもり、断捨離、早めの衣替えで、家庭からの資源物(特に古着)が大量発生し、大変苦労したのを思い出します。TVでは、今年もお家で断捨離するという声が多く聞かれました。昨年は、輸出の停止によって国内に滞留したため、六月位まで大混乱となりました。通常時でも、一度に大量に出されると、それだけ回収の時間も遅れてしまいます。いつも通りの量を出して頂く様をお願いします。余談ですが、GW中、我慢ついでにファスティング(断食に挑戦し、三キロ痩せましたが、食べ物を見るほど辛かったです。食べられるって幸せですね。(TKO)